

「私大文系学部で国際貿易論を教えるということ」実施報告

学事センターFD推進担当

タイトル : 私大文系学部で国際貿易論を教えるということ
主催 : 経済学部
共催 : 上智大学FD委員会
日時 : 2019年10月10日(木) 15:30~17:00
場所 : 6号館4階 6-406教室
講師 : 横田一彦氏(早稲田大学商学部 教授)
出席者 : 教員18名

内 容 :

冒頭、早稲田大学商学部の入試形態、商学部カリキュラムにおける「国際貿易論」(講師担当科目)の位置づけや、その履修状況(学年とそれぞれの割合を含む)などが紹介された。

「国際貿易論」は、学生から大変高い評価を獲得し続けており、数学との関連性が非常に高い科目でありながら、なぜこのような評価へとつながっているか、講師が授業において実践している工夫の数々が紹介された。

その一つとして紹介された「サマリーシート」は、成績評価にも活用されていることに加え、学生自身にとっても「まとめる能力の練習」、「記憶の定着」、「試験勉強への活用」へとつながっていることが説明された。また、提出されたサマリーシートの採点は、すべてTAが行っていることも紹介され、参加者からはその運用に関して多くの質問が寄せられた。

それ以外にも、320名という多くの学生が履修する当該科目において、学生の意欲を引き出すために行っている工夫(特に大教室での工夫)や、数学の知識が必ずしも十分でない学生に対し、数学を使用せずに図を多用することなど、具体的、かつ、実践的な工夫が多く紹介された。

参加者からも、自身の授業における経験を踏まえた質問が数多くあがるなど、授業運営に関するさまざまな情報が共有され、会は盛況のうちに終了した。

以上

